





人は安心安全な「コンフォートゾーン」と、自分の能力の限界を超えた「パニックゾーン」の間にある「ラーニングゾーン」で最も成長意欲が高まるとされています。博報堂のCS異動者においても、その傾向が確認されています。



(cf. 流方大学にM・天シ一教授が提唱)

①コンフォートゾーン (快適な空間)



安心・安全、
リラックス

②ラーニングゾーン (学びの空間)



挑戦、適度な負荷・
ストレス

③パニックゾーン (危険な空間)



強い不安、
恐怖、限界

<データ> ストレッチすればするほど人は成長する？

「PJマネジメント力」と「マネタイズ力」において、有意な傾向が確認できた。

スキルによる
違いはあるが、
異動による変化量は
多ければ多いほど
よいわけではなく、
最適量的ときに
最も成長につながる。

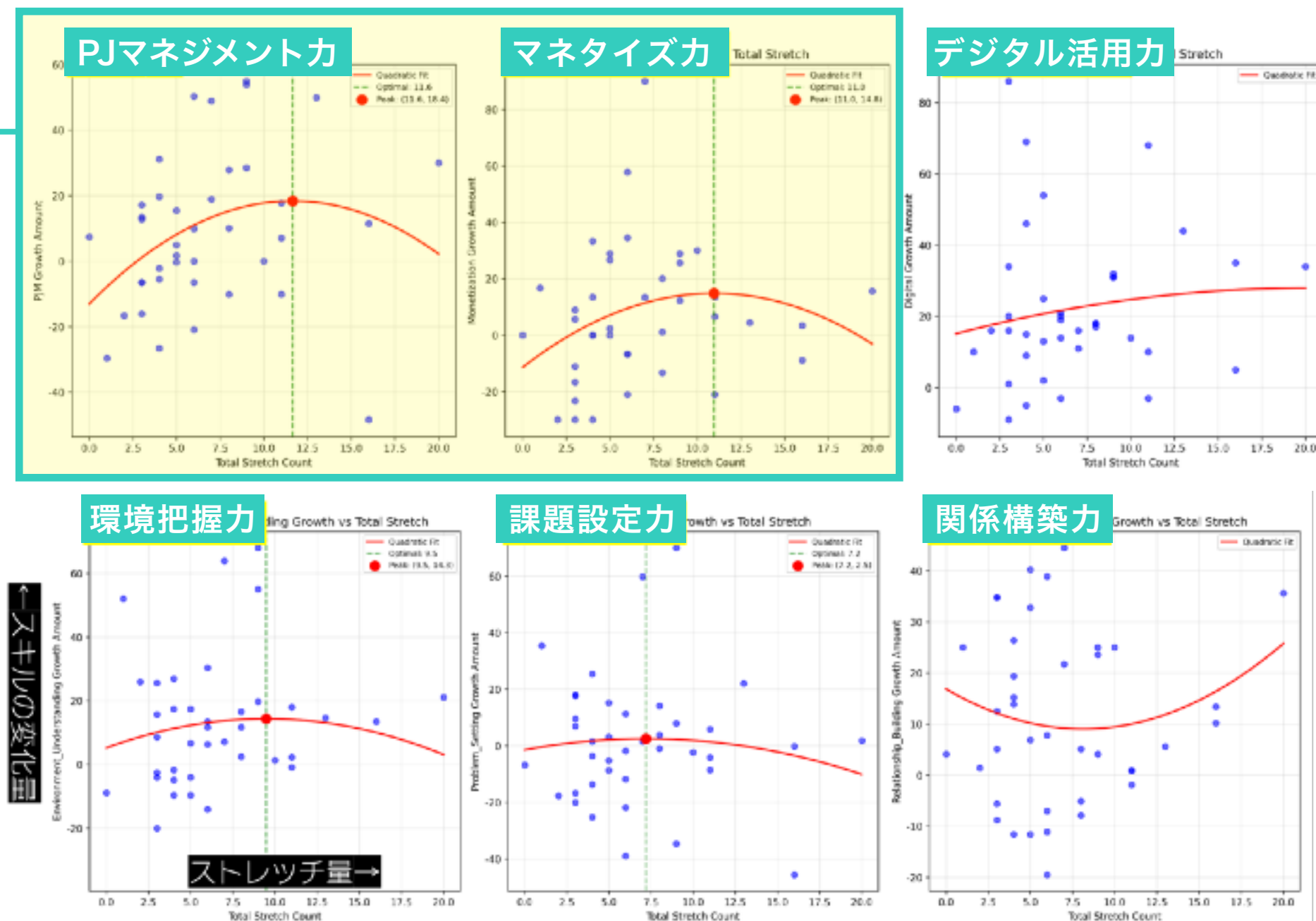
※分析対象者：

2023年10月にCS異動を経験した

BP職社員 (n=39)

※分析手法二次項重回帰分析で検証。

※対象データ:スキルサーベイ



人事室よりメッセージ

CS異動にあたっては、異動対象者全員との面談やキャリアストレッチプランニングシートを読み込み、本人の志向性や異動先とのマッチングを熟考しています。

近しい領域への異動は、「キャリアのストレッチ」になりません。新たな領域や複数領域の経験によって、多くの“旗”を立てて、ご自身のスタイルを確立してほしいと思っています。

成長のためのストレッチには、適切な変化量が存在するようです。

- ✓ 人は安心安全な「コンフォートゾーン」と、自分の能力の限界を超えた「パニックゾーン」の間にある「ラーニングゾーン」で最も成長意欲が高まるとされています。博報堂のCS異動者においても、その傾向が確認されています。

(cf. ミシガン大学ノエル・M・ティシー教授が提唱)

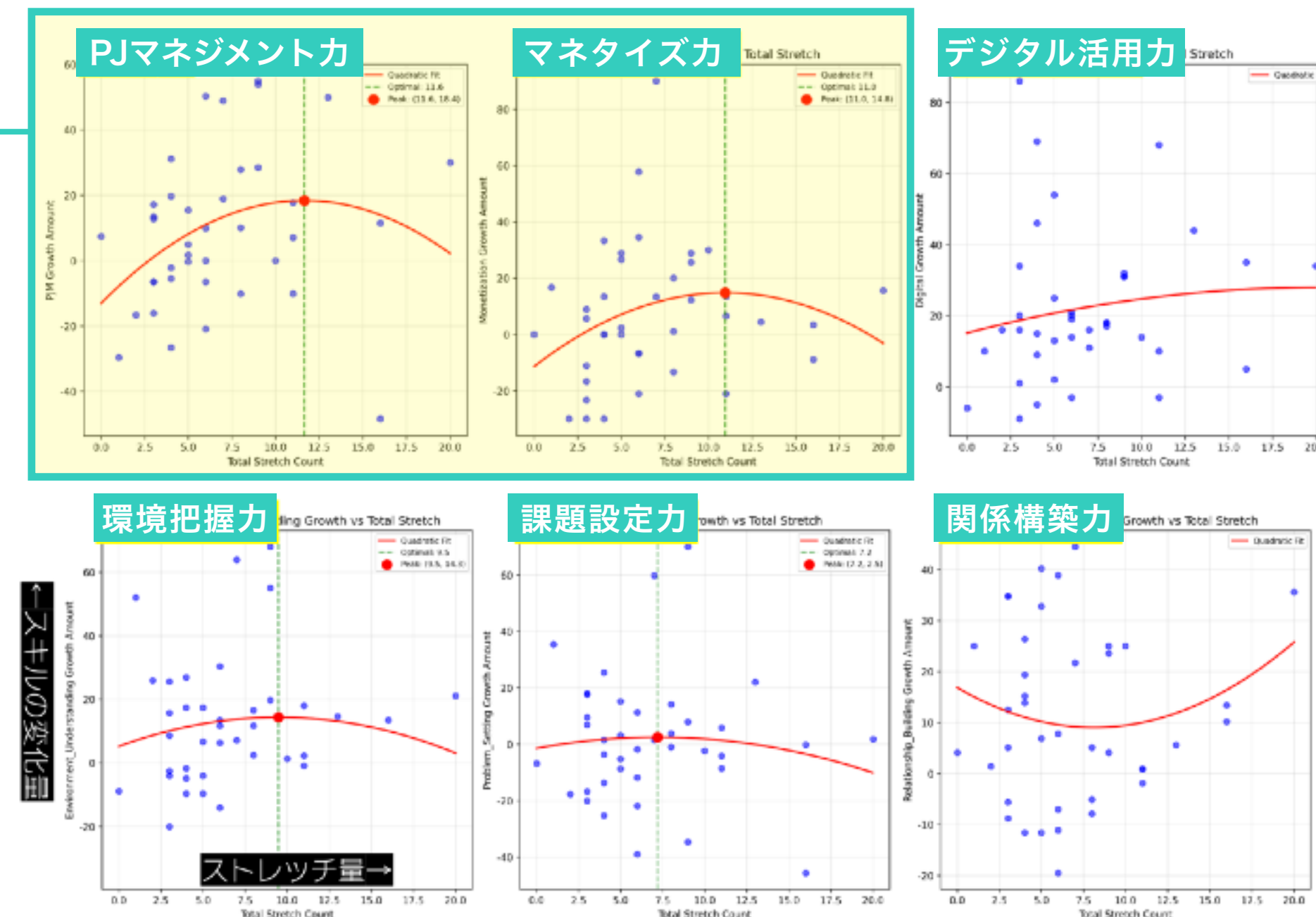


<データ> ストレッチすればするほど人は成長する？

「PJマネジメント力」と「マネタイズ力」において、有意な傾向が確認できた。

スキルによる違いはあるが、異動による変化量は多ければ多いほどよいわけではなく、最適量のときに最も成長につながる。

※分析対象者：
2023年10月にCS異動を経験した
BP職社員 (n=39)
※分析手法二次項重回帰分析で検証。
※対象データ:スキルサーベイ



人事室よりメッセージ

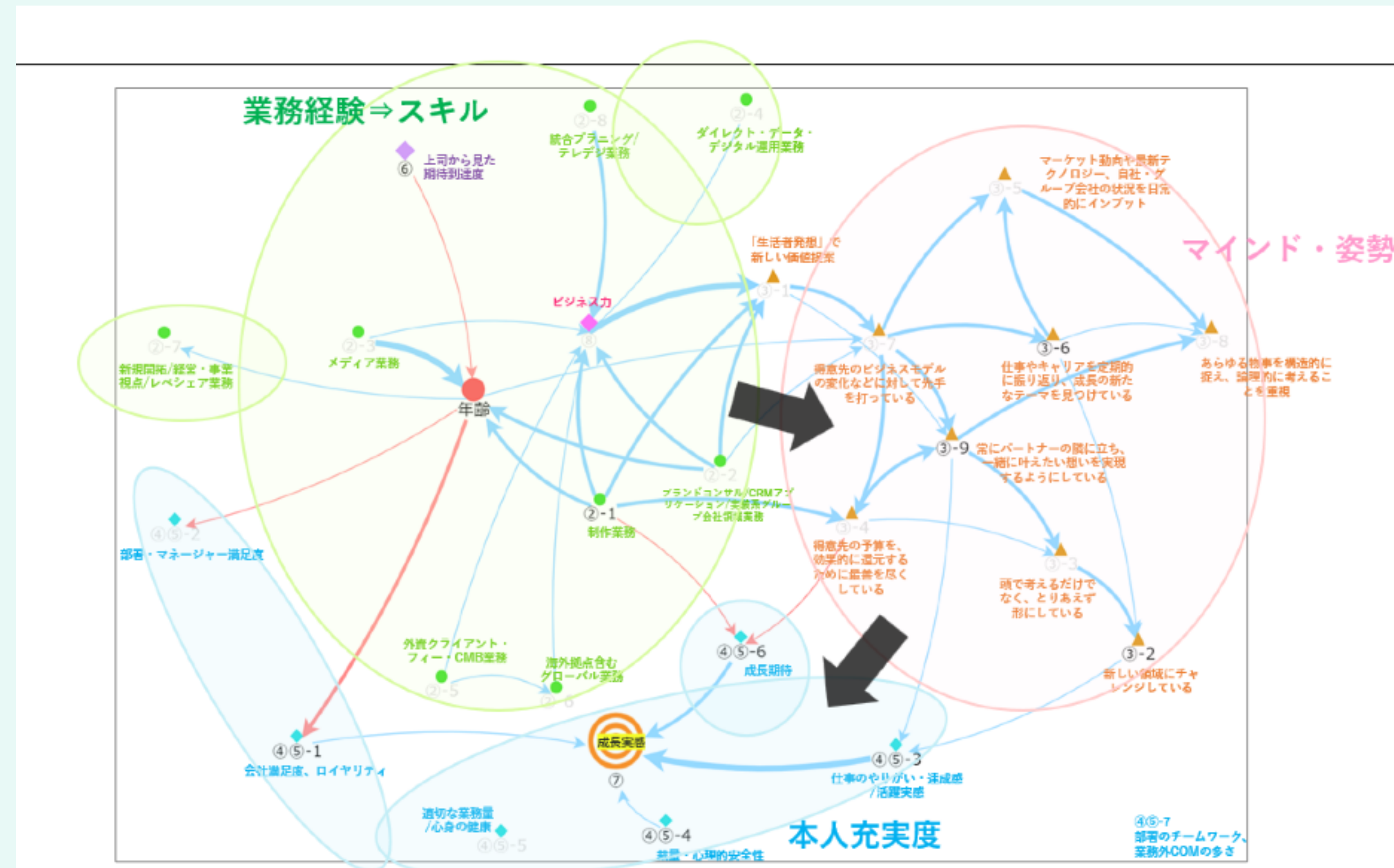
CS異動にあたっては、異動対象者全員との面談やキャリアストレッチプランニングシートを読み込み、本人の志向性や異動先とのマッチングを熟考しています。

近しい領域への異動は、「キャリアのストレッチ」になりません。新たな領域や複数領域の経験によって、多くの“旗”を立てて、ご自身のスタイルを確立してほしいと思っています。

CS異動者は、新しい業務の知識や動き方を吸収し、
小さな成功体験で自信をつけながら、
能動的に動いて成果を出せるようになっていきます。

<データ> 成長実感につながる因果探索分析

BP職では、業務経験をして「スキルに対する自信」がつくと、「得意先と想いを共有し、先回りして動くマインド」が上がり、それが「成長実感」につながる傾向がある。



※分析対象者：2023年にスキルサーベイ、INSIDESに回答したBP職社員 (n=1015)
※分析方法：スキルサーベイ、INSIDESの回答結果をもとに因果探索分析を実施。